

MailUtl ユーザーズマニュアル

MailUtl Version 1.42 対応

ドキュメント Version 1.42 (2005 年 11 月 9 日)

Copyright © 2002-2005 Fumio Kawamata

Permission is granted to copy, distribute and/or modify this document under the terms of the GNU Free Documentation License, Version 1.2 or any later version published by the Free Software Foundation; with no Invariant Sections, no Front-Cover Texts, and no Back-Cover Texts. A copy of the license is not included in this document. However, the original author released this document with a copy of the license. You might find a file named “fdl.txt” in the distribution package.

あなたは、この文書を、フリーソフトウェア財団発行の GNU フリー文書利用許諾契約書(バージョン 1.2 かそれ以降から一つを選択)が定める条件の下で複製、頒布、あるいは改変することができます。詳細は、同梱されている “fdl.txt” ファイルをお読みください。

目次

1. はじめに.....	1
1.1. MailUtl について	1
1.2. 著作権.....	1
1.2.1. 著作物の区分.....	1
1.2.2. Fumio Kawamata の著作物	1
1.2.3. 他者に著作権のあるファイル.....	1
1.3. 再頒布または変更する場合の注意.....	2
2. 問合せ先	2
3. インストール及びアンインストール.....	2
3.1.1. 最新版の確認.....	2
3.1.2. インストール	3
3.1.3. アンインストール.....	3
4. 使い方(初級編).....	3
4.1. ルールファイルの作成	3
4.2. パラメータの設定.....	3
4.3. 実行.....	4
4.4. ログファイル.....	4
5. 使い方(中級編).....	5
5.1. ルールファイルの作成	5
5.2. 実行.....	6
5.3. コマンドラインオプション一覧.....	6
5.4. 環境変数.....	6
5.5. エラーレベル.....	6
5.6. バッチファイル.....	7
6. 使い方(上級編).....	7
6.1. 正規表現.....	7
6.2. パターン中で使用できる主要メタ文字	7
6.3. パターン中で使用できる回数指定表現.....	7
6.4. 修飾子.....	8
7. History(履歴).....	8
7.1. プログラムの History	8
7.2. ユーザーズマニュアルの History.....	8
8. Acknowledgements(謝辞).....	8
9. その他	9
9.1. 既知の問題.....	9

1. はじめに

1.1. MailUtl について

MailUtl は、POP サーバ内のメールをスキャンし、指定した条件(送信者のメールアドレスやドメイン、メールサイズ、メールの種類(HTML メール等)、メールの送信日付、その他)に合致したメールを POP サーバから削除するプログラムです。

同種のプログラムは既に多数存在しています。厳密に調査した訳ではありませんが、MailUtl は同種のプログラムに無い以下の特徴を有しています。

- (1) 知らない人から送付された、常識的に考えてサイズの大きい(例えば 32 キロバイト以上)のメールを削除できますので、Virus が添付されたメールを受け取る可能性を低減できます。
- (2) 何日も前(例えば 30 日以上前)や何日もあと(例えば 7 日以上あと)の日付が設定されているようなメール(メールに注目させるように故意に設定されてることが多い)を削除できます。
- (3) HTML メールやファイルが添付されたメールを削除することができます。
- (4) Windows のコマンドライン上で動作します。
- (5) 検索文字列のマッチングに正規表現(PERL5 レベル)を利用できます。
- (6) レジストリは操作しません。(INI ファイルに設定情報を保存します。)
- (7) プログラムのソースコード(Borland Delphi Version 6 Professional 用)が添付されたフリーソフトウェアです。ソースコードは GNU General Public License (GNU GPL)のもとで複製、頒布、あるいは改変することができます。

1.2. 著作権

1.2.1. 著作物の区分

MailUtl を構成するファイルは、Fumio Kawamata に著作権があるファイルと、他者に著作権のあるファイルに分類されます。

1.2.2. Fumio Kawamata の著作物

Fumio Kawamata に著作権があるファイルのうち、プログラムについては GNU GPL が、マニュアルについては GNU FDL が適用されます。あなたは、これらのライセンスに従い、Fumio Kawamata に著作権のあるファイルを複製、頒布、あるいは改変することができます。

1.2.3. 他者に著作権のあるファイル

- (1) Indy Project の idPOP3.pas、idSMTP.pas、idMessage.pas、idGlobal.pas 等を使用しています。(パッケージには同梱しておりません)。これらのファイルの著作権は Chad Z. Hower (Kudzu) と Indy ピットクルーに帰属します。idPOP3.pas idSMTP.pas、idMessage.pas、idGlobal.pas and some other files Copyright (C) 1993 - 2003, Chad Z. Hower (Kudzu) and the Indy Pit Crew。
- (2) src¥pzconv ディレクトリ内のファイルの著作権は Pz factory 氏に帰属します。PzConv.pas and readme.txt Copyright (C) Pz factory。(同梱して配布することについて、Pz factory 氏の許諾を得ております。)

- (3) src¥bgrepexp ディレクトリ内のファイルの著作権は Osamu Takeuchi 氏に帰属します。BRegExp.pas and BRegExp.hlp Copyright (C) Osamu Takeuchi All right reserved. (ヘルプファイルに、「本ユニットの著作権についてはとやかく言うつもりはありません。好きな ようにお使い下さい。」と記載されているので、Takeuchi 氏には連絡無しで使用しています。)
- (4) BREGEXP.DLL の著作権は Tatsuo Baba 氏に帰属します。BREGEXP.DLL Copyright (C) Tatsuo Baba. (DLL のダウンロードページに「使用、配布に制限はありません。自由にお使いください。」と記載されていたので、Baba 氏には連絡無しで使用しています。)
- (5) gpl.txt 及び fdl.txt の著作権は Free Software Foundation に帰属します。gpl.txt and fdl.txt Copyright (C) Free Software Foundation. (gpl.txt 及び fdl.txt の冒頭に Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.と記載されているので、Free Software Foundation には連絡無しで同梱しています。)

1.3. 再頒布または変更する場合の注意

受け取ったままの状態であれば自由に再頒布できます。Fumio Kawamata 以外に著作権のあるファイルのみを取り出して再頒布したり、変更したりする場合は各著作者に問い合わせてください。

他サイトへの登録はご自由にどうぞ。事前あるいは事後の許諾を得る必要はありません。

雑誌の付録 CD-ROM 等に収録するのはご自由にどうぞ。事前あるいは事後の許諾を得る必要はありません。見本誌はいただきません。

2. 問合せ先

MailUtl あるいはこの文書についての問い合わせは下記までお願いします。

fumio@my.email.ne.jp

ただし、以下のメールは配送されません(MailUtl によりメールサーバから自動的に削除されます)。

- (1) hotmail.com, yahoo.co.jp, freemail.ne.jp に代表される、匿名性の高いフリーメールアドレスからのメール。
- (2) HTML メールや、Content-Type:行に multipart を含むメール。(Windows 付属の Outlook あるいは Outlook Express をお使いの方は、自分で気づかずに HTML メールを送信している場合がありますのでご注意ください。)
- (3) 常識的に考えて大きいサイズのメール(Virus が添付されたメール等)。
- (4) 送信日付を故意にずらしてあると思われるメール。

3. インストール及びアンインストール

3.1.1. 最新版の確認

あなたが入手したパッケージは最新版ではないかもしれません。インストールの前に、最新版の有無を確認してください。MailUtl の最新版は以下のページからダウンロードできます。

<http://openlab.jp/fumio/index-j.html>

3.1.2. インストール

MailUtl は、文字列”mu”に続けて、メジャーバージョンを表す 1 桁の数字、マイナーバージョンを表す 2 桁の数字、そして文字列”.zip”を組合せたファイル名で配布されます。例えば、バージョン 1.42 であれば、”mu142.zip”というファイル名で配布されます。Zip 形式ファイルを展開するプログラムにより、配布ファイルを任意のディレクトリに展開してください。これでインストールは終わりです。

3.1.3. アンインストール

アンインストールする場合は、展開したファイルと、後述するルールファイル、設定ファイル、ログファイルを削除してください。MailUtl は専用のアンインストーラを持ちませんので、手動で削除してください。

4. 使い方(初級編)

4.1. ルールファイルの作成

下記のように、POP サーバから削除したい送信者のメールアドレスを記述した「ルールファイル」を用意してください。

```
username@a.domain  
anotheruser@another.domain
```

ルールファイルは、任意のファイル名で任意の場所に保存可能ですが、将来の MailUtl のアップデートに備え、MailUtl をインストールしたディレクトリとは別のディレクトリに保存することを強くお奨めします。筆者は、ルールファイルを D:¥Home¥MailUtl¥rule.txt に保存しています。

送信者個人のメールアドレスではなく、下記のようにサブドメインやドメインを指定することもできます。

```
hostname.a.domain  
domain
```

4.2. パラメータの設定

ルールファイルの次は、パラメータ設定を行います。下記のように、コマンドラインから MailUtl を-C オプション付で実行します。

```
mailutl -C
```

下記のようなメニュー画面が表示されます。

```
MailUtl 1.42 Copyright (C) 2002-2005 Fumio KAWAMATA
```

```
***** Menu *****
```

1. POP3 Host:
2. POP3 Port (Default is 110): 110
3. POP3 User ID:
4. Log directory: c:¥
5. INI filename: D:¥mailutl¥MailUtl.ini
6. HTML Lang:
7. HTML Charset:

Command [1]-[7], [S]ave, [Q]uit without save, [R]un ==>

==> に対して下記の表を参考にして、1 から 5 の各項目を設定します。設定が終了したら、S を入力して設定内容を保存し、最後に Q を入力してプログラムを終了してください。

番号	項目	内容
1	POP3 Host:	POP サーバ名を指定します。
2	POP3 Port:	POP3 ポート番号を指定します。デフォルトは 110 です。
3	POP3 User ID:	POP3 サーバに接続する際のユーザ ID を指定します。
4	Log directory:	プログラムが出力するログファイルの保存先(ディレクトリ)を指定します。デフォルトは c:¥です。
5	INI filename:	MailUtl の各種パラメータを保存するためのファイル名を指定します。デフォルトは、MailUtl.exe が存在しているディレクトリの MailUtl.ini ファイルです。
6	HTML Lang:	HTML 形式ログファイルの中の、HTML タグの Lang 属性を指定します。(将来の拡張用で、現バージョンでは機能しません。)
7	HTML Charset:	HTML 形式のログファイルの charset 属性を指定します。通常は Shift_JIS を指定してください。

4.3. 実行

コマンドラインから、次のようにプログラムを実行します。

```
mailutl -R ルールファイル名 -I 設定ファイル名 -PPOP3 パスワード
```

ルールファイル名は先に保存したルールファイル名を指定します。同様に設定ファイル名を指定します。ただし、設定ファイルが MailUtl.exe と同一のディレクトリ内の MailUtl.ini の場合には、-I オプション自体を省略することができます。POP3 パスワードは、POP サーバのパスワードを指定します。このとき、タイプしたパスワードを他人に見られないように注意してください。

4.4. ログファイル

プログラム実行中は画面にメッセージが表示されます。画面に表示されたメッセージとほぼ同じ内容が、先に指定したログファイルの保存先に保存されます。保存されるファイルは下記の 3 種類です。

種類	内容	ファイル名
1	処理番号、メールの件名、メール送信者、メール宛先、MailUtl による処理とその理由等が記録されます。	YYYYMMDD.txt YYYY、MM、DD はプログラム実行年月日のそれぞれ西暦、月、日を表します。
2	実行結果を閲覧しやすいように一覧表形式で表現したものです。閲覧には一般の WEB ブラウザが必要です。	YYMMDD-hhmmss.html YYYY、MM、DD の意味は上と同じです。hh、mm、ss はプログラムの実行開始時刻の時、分、秒を表します。
3	削除したメールのメールヘッダです。上記一覧表からリンクされています。	YYYYMMDD-hhmmss.txt YYYY、MM、DD は削除したメールの送信日のそれぞれ西暦、月、日を、hh、mm、ss は同じく時、分、秒を表します。同一年月日日時秒のファイルは、 YYYYMMDD-hhmmss_2.txt 、 YYYYMMDD-hhmmss_3.txt

5. 使い方(中級編)

5.1. ルールファイルの作成

初級編では単に削除したいメールアドレスやドメインを記述するだけでしたが、他の条件を記載することで、より柔軟な処理が可能になります。ルールファイルには、

- (1) 判定文字列、メールサイズあるいは日数(メール送信日と現在日とのずれ)
- (2) メールヘッダ内のフィールド、MsgSize、PastDate あるいは FutureDate
- (3) Keep、Del、Continue 等の操作コマンド

の3項目をTAB記号で区切って記述します。ルールファイルの記述例を下記に示します。なお、TAB記号は^Tで表現しています。

```
#
# コメントを記述する際は、行頭に#を記述してください。
#
# 特定のユーザ、ドメイン、あるいはメーリングリストからのメールアドレスをそのまま
# POP サーバに残す。
username@a.domain^T From:^T Keep
a.domain^T From:^T Keep
a-mailing-list^T X-ML-Name:^T Keep
#
# 特定のユーザあるいはドメインからのメールアドレスを削除する。
username@a.domain^T From:^T Del
a.domain^T From:^T Del
# 次のように単にメールアドレスだけを記述した場合は、 From:^T Del が指定された
# ものとみなします。
username@a.domain
#
# 指定ドメインが From: 行と Message-ID: 行の両方に含まれるメールを POP サーバに残す。
# (Continue の利用例)
a.domain^T From:^T Continue
a.domain^T Message-ID:^T Keep
#
# 自分宛でないメールを削除する。(!の利用例)
!myaddress@my.domain^T To:^T Continue
!myaddress@my.domain^T Cc:^T Del
#
# メールサイズが 32000 バイト以上のメールを削除する。
>32000^T MsgSize^T Del
#
# 送信日付が 30 日以上前のメールを削除する。
>30^T PastDate^T Del
#
# 送信日付が 7 日以上先(未来の日付)のメールを削除する。
>7^T FutureDate^T Del
```

MailUtl は、ルールファイルの記述順にルールを評価し、評価結果が真となった(Keep や Del を実行した)場合には評価を終了して次のメールを処理します。基本的には、ルールファイルの冒

頭にはメールを保存(Keep)するように記述し、メールの削除(Del)はそのあとに記述するとよいでしょう。

ただし、メーリングリスト宛のメールを保存する場合には、注意すべき点があります。メーリングリスト宛のメールの中には、削除したい特定送信者からのメールが含まれる場合があります。この場合には、メーリングリストを保存(Keep)する記述の前に、特定アドレスを削除(Del)するように記述した方が有効です。

5.2. 実行

初級編と同様、コマンドラインから次のようにプログラムを実行します。

```
mailutl -R ルールファイル名 -I 設定ファイル名 -PPOP3 パスワード
```

次のように-B オプションを付けると、ログファイルにはあたかもメールを削除したように記録が残りますが、実際の削除処理を行わないようになります。-B オプションを付けてプログラムを実行することで、ルールファイルの記述が自分の意図通りになっているか確認することができます。

```
mailutl -B -R ルールファイル名 -I 設定ファイル名 -PPOP3 パスワード
```

5.3. コマンドラインオプション一覧

これまでコマンドラインオプションをいくつか示しましたが、以下に一覧を示します。

オプション	意味
-B	ログファイルにはあたかもメールを削除したように記録が残りますが、実際の削除処理を行わないようになります。-B オプションを付けてプログラムを実行することで、ルールファイルの記述が自分の意図通りになっているか確認することができます。
-C	設定項目を対話形式で入力します。
-H	プログラムの著作権表示と、簡単なヘルプを表示します。
-I 設定ファイル名	設定ファイル名を指定します。
-PPOP3 パスワード	POP サーバのパスワードを指定します。
-R ルールファイル名	ルールファイルを指定します。

コマンドラインオプションの-(ハイフン)の次の1文字は大文字小文字を区別します。例えば、-B のつもりで-b と指定した場合は、その指定は無視されます。

5.4. 環境変数

POP3 パスワードは環境変数 "POP3_USERPASS" で指定することもできます。パスワードを環境変数で指定する場合は指定内容を他人に見られないように注意してください。(ちなみに、筆者は自宅でパソコンを自分一人で使っているので、環境変数で指定しています。)

5.5. エラーレベル

ERRORLEVEL	意味
0	正常に終了しました。
1	.INI ファイルを読み込めません。
2	使用方法を表示して終了しました。
3	パラメータ設定中にユーザにより強制終了されました。
4	ルールファイル読み込みエラー。
5	POP サーバに接続できませんでした。ユーザ ID あるいはパスワードが間違っていないか確認してください。
6	HTML ファイルを作成できませんでした。

5.6. バッチファイル

設定ファイルやルールファイルを指定して MailUtl.exe を実行できるようなバッチファイルを利用すると便利です。バッチファイルの例は、MailUtl.exe と同じディレクトリ内の run.bat を参考にしてください。

6. 使い方(上級編)

6.1. 正規表現

Version 1.4 から、判定文字列(パターン)に正規表現が使用できます。正規表現のレベルは、PERL5 レベルです。Tatsuo Baba 氏の BREGEXP.DLL 及び Osamu Takeuchi 氏の BREGEXP.pas を使用して機能を実現しています。以下のように、「¥m/パターン/修飾子」スタイルで記述します。例えば、info@xxx.com(xxx は1文字以上の任意文字列)からのメールを削除するには、ルールファイルに以下のように記述します。

```
¥m/info@.+¥.com$/i^T From:^T Del
```

以下のように記述しても同一です。

```
¥m/info@.+¥.com$/i
```

パターン中に/を含めたい場合は、「m\$パターン\$修飾子」のようにします。

6.2. パターン中で使用できる主要メタ文字

メタ文字	意味
¥	次のメタ文字をクォートする
^	行の最初
.	改行以外のすべての文字
\$	行末
	選択
()	グループ
[...]	...の1文字
¥w	英数字と "_"
¥W	英数字と “”以外
¥s	空白文字
¥S	空白文字以外
¥d	数字
¥D	数字以外
¥b	単語境界
¥B	単語境界以外
¥A	文字列先頭
¥Z	文字列末尾
¥t	タブ
¥n	改行
¥r	復帰

6.3. パターン中で使用できる回数指定表現

数量子	意味
*	0 回以上
+	1 回以上
?	1 回または 0 回

数量子	意味
{n}	n 回
{n,}	n 回以上
{n,m}	n 回以上 m 回以下

6.4. 修飾子

修飾子	意味
k	文字を日本語(Shift JIS)として扱う(BREGEXP.dll 独自機能)。
i	大文字と小文字の区別をしない。

7. History(履歴)

7.1. プログラムの History

バージョン	日付	内容
	2002 年	プログラムの作成開始
1.00	2003 年 04 月 27 日	www.vector.co.jp に登録されました。
1.01	2003 年 10 月 04 日	www.vector.co.jp に登録されました。
1.2	公開時期失念	openlab.jp に登録しました。
1.3	2004 年 07 月 19 日	openlab.jp に登録しました。
1.4	2005 年 09 月 25 日	openlab.jp に登録しました。
1.41	2005 年 10 月 10 日	openlab.jp に登録しました。
1.42	2005 年 11 月 9 日	openlab.jp に登録しました。削除通知機能をコードから除去しました。

7.2. ユーザーズマニュアルの History

バージョン	日付	内容
1.00	2003 年 04 月 27 日	www.vector.co.jp に登録される。
1.01	2003 年 10 月 04 日	www.vector.co.jp に登録される。
1.2	公開時期失念	openlab.jp に登録した。
1.3	2004 年 07 月 19 日	openlab.jp に登録した。
1.4	2005 年 09 月 25 日	openlab.jp に登録。Version 1.3 までのプログラムに添付していたドキュメント(GNU GPL により配布)とは別著作物とし、GNU FDL により配布することにしました。
1.4a	2005 年 09 月 27 日	削除通知機能について位置付けを低くしました。
1.41	2005 年 10 月 10 日	openlab.jp に登録しました。
1.42	2005 年 11 月 9 日	openlab.jp に登録しました。

8. Acknowledgements(謝辞)

idPOP3.pas、idSMTP.pas、idMessage.pas、idGlobal.pas 等を公開されている Indy プロジェクトチーム(Chad Z. Hower (Kudzu) と Indy ピットクルー (Indy Pit Crew))に感謝します。

PzConv.pas を公開され、利用許諾をくださった Pz factory 氏、BREGEXP DLL を公開されている Tatsuo Baba 氏及び BREGEXP.pas を公開されている Osamu Takeuchi 氏の各氏に感謝します。

プログラムの不具合報告、改善提案をいただいたユーザーさんに感謝します。

このプログラムのユーザーさん、このプログラムを紹介していただいている方(あるいは組織)に感謝します。

皆さん、ありがとうございます。

9. その他

9.1. 既知の問題

サーバに保存されているメールの通数が多い場合、MailUtl が処理しているあいだに、新しいメールがサーバに届く場合があります。例えば、MailUtl 実行開始時はメールが 100 通だったのに、MailUtl 処理中に 101 通目が届くと、MailUtl は 101 通目を処理しません。この場合、MailUtl 動作後にメールを受信すると、101 通目のメールは MailUtl のフィルタリングをすり抜けたように見えます。これは MailUtl の不具合ではなく、POP の仕組み上回避不能です。

ユーザさんから、ログに『Could not retrieve header.』の表示が残ることが報告されています。Subject の文字数が多い場合や、Subject の文字コードが EUC になっている場合に、ヘッダの受信に失敗するようです。作者は現象を確認できないのでペンディングとなっています。